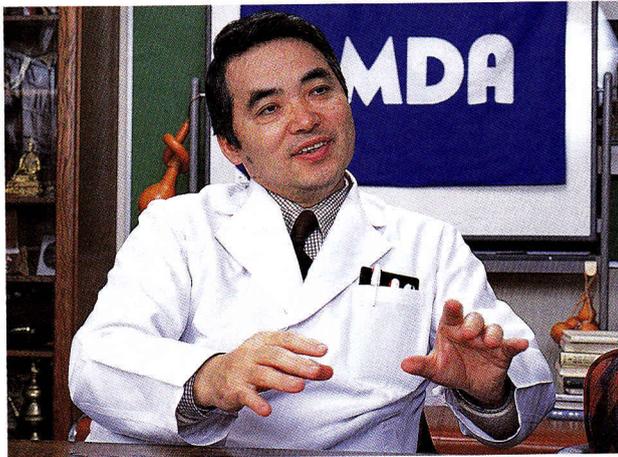
**AMD A**

「AMD A」の原点は「びんご」で過ごした少年時代にある!

国連NGOアムダ理事長 **菅波 茂** 医師**AMD A****AMD A (アムダ)とは**
The Association of Medical Doctors of Asia

アジア医師連絡協議会。1984年に設立された国際医療協力を行うNGO(非政府組織)。アジアやアフリカ、中南米などで自然災害や戦争により難民となった人々への緊急救援(医療)活動に力を入れている。ルワンダ難民、コソボ難民救援から、台湾大地震、最近ではインド西部大地震の緊急救援と幅広く活動、さらに開発途上国での地道な保健プロジェクトまで参加。阪神・淡路大震災でも現場に一番乗りして救援活動を開始している。本部は岡山市、アジア28カ国に支部がある。

緊急医療救援を行う団体として、アムダが全国的に知名度を高めたのは阪神・淡路大震災での目覚ましい活動。地震発生日には現地事務所を設置し活動を開始した迅速な行動力は、設立以来アムダが積み重ねて来た地道な海外医療救援活動の経験によるもの。アムダ代表理事でもある菅波茂医師は「びんご」の出身。人格の形成にも大きな影響をもたらしたと自らが語る、菅波医師の「びんご」で過ごした少年時代をクローズアップしてみました。

神辺から30分かけて福山まで自転車で通ったんですよ。福山誠之館を卒業する18歳まで、神辺に住んでいました。生まれたのは県の文化財にもなっている神辺本陣。今も兄夫婦が母と暮らしています。

黄葉山、一番思い出に残っているのは、何と言っても黄葉山ですね。吉野山公園があるところ、ちょうど神辺小学校の後ろになるんですけど、この山が一番思い出が深いですね。(通学路から外れて)わざわざ回り道して家に帰っていたし、同じ町内の子どもたちとよく遊びに行っていました。昔は神辺城がありましたし、結構、遊ぶには良かったですよ。いまだに僕が山が好きなのは、黄葉山のせいでしょうね。

それから、また、備後国分寺の上の方では水晶が出るんですよ。山が砂地なんです。小学校の時は皆でよく水晶を取りに行ったんだけど、そのあたりの悪童たちにいじめられたりね。その子どもたちが中学になったら同級生にいたわけですよ。(笑)

子どもの頃の遊びと言うのは、アムダの活動にも関連していますね。黄葉山でちゃんばらごっこをしたりね。やはりそんな中でリーダーシップをとるとか、山の中をかき分けて行く探検家精神のようなものが。緊急救援をやりますよね。どちらかと言うと緊急救援の精神と言うのは、単に困った人を助けるだけではなく探検家の要素も多いと思いますよ。緊迫した雰囲気の中での的確な仕事が求められる緊急救援には、

常にそこに不安定さがあるわけですよ。やはり同じ町内の子どもたちと黄葉山で遊びまわって、その群れの中で鍛えられたので、リーダーシップとか、探検家精神が養われるのに非常に良かったと思います。「アムダの活動の原点は黄葉山にあり」、そう言ってもいいと思いますよ。

医師になったのもね、小学校2年の学芸会でヤギのお医者さんの役をやったことが原体験になっている部分もありますね。それくらい小学校の体験は(人生に)大きく影響しています。実際には高2頃まで文科系の受験勉強をしていたんですけど、(進路変更をして)医師にならなかつたら、アムダほど自分のやりたいことを実現(発揮)できる場所(仕事)は見つからなかつたかもしれませんね。

日常業務の半分をアムダの活動に費やしています。年間3ヶ月は海外に出かけていますね。情熱を失わず活動を継続することは大変。やはり妻の理解に支えられている部分が多い。内助の功、ですね。大学時代、アムダの基礎にもなる「岡山大学クワイ河医学踏査隊」と言うのがあって、ここで黄葉山の続きをやっていたわけですよ(笑)。妻は僕が隊長だった時の隊員。ジャングルの中に連れて入っても健康的だったんで「これはいい」と。(笑)偶然、神辺町内の、中条地区の出身です。同じ備後の精神風土の中で育てている同士でアムダを支えている、と一。

「アムダ代表・菅波茂医師/談」

菅波 茂 (AMD A代表)
プロフィール

昭和21年(1946年)、深安郡神辺町生まれ。

福山誠之館高校を卒業するまでの18年間を神辺町で過ごす。1976年に岡山大学医学部大学院を卒業。翌年、岡山大学医学部第一内科に入局し、心臓病センター榎原病院勤務を経て、1981年、岡山市にアスカ国際クリニックの前身である菅波内科医院を開業。1984年にアムダ、1991年にアムダ国際医療情報センターを設立。アムダ代表、内科医としての日常業務の傍ら、大阪大学、京都大学、岡山大学等での非常勤講師、執筆・講演活動と精力的にこなしている。1993年の外務大臣表彰をはじめ、各団体からの受賞歴も多い。

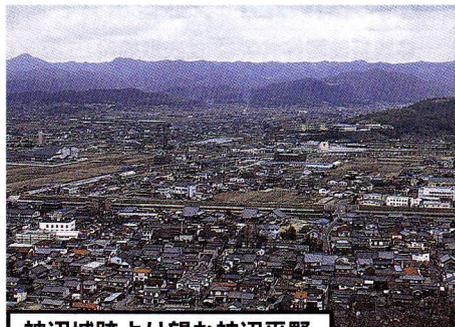
「びんご」

～風景の中に少年時代の素顔が見える～



黄葉山 (こうようざん)

小学校からの帰り道は、わざわざ回り道して山を越え自宅に戻る。その頃から山が大好きだったと言う。少年の冒険心をくすぐる黄葉山。黄葉山で遊んだ頃、アムダの活動にも結びつくチャレンジ精神が培われた。



神辺城跡より望む神辺平野

神辺城は、神辺平野を一望できる黄葉山に築城されたと言われている。菅波医師の少年時代、当時の子どもたちの格好の遊び場となった。町内の子どもたちと群れて遊んだ体験の中で、精神的に鍛えられた部分は大きい。



茶山亭

1998年に岡山市に開設したデイケアセンターには、故郷神辺町が誇る江戸時代の朱子学者菅茶山(かん・ちゃざん)にちなんで名前が付けられた。



茶山饅頭

茶山の命日である13日、菅波医師は毎月「茶山の日」として茶会を開く。入所者や外来の人に神辺町から取り寄せた茶山饅頭が配られる。手づくりの素朴な茶山饅頭は菅波医師の推奨品。

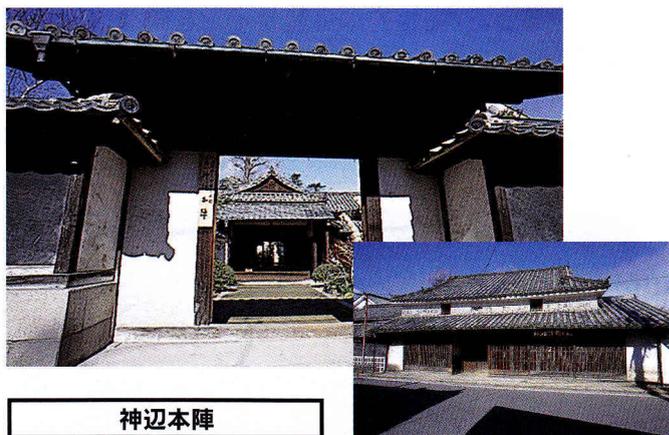
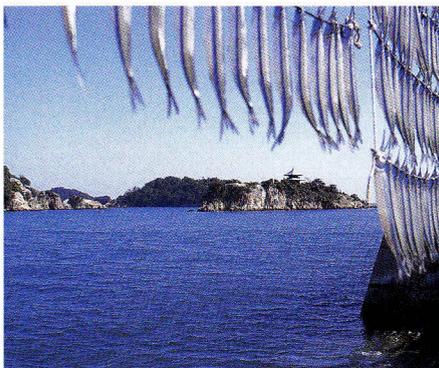
神辺小学校

人間的にも多くの良い教師に恵まれた小学時代。当時は教師が宿直にあたっていたので、担任の先生が当直の時は宿直室に押しかけて社会勉強になる話をいろいろ聞かせてもらった。



鞆の浦・仙酔島

海水浴と言えば思い出すのが鞆の浦。仙酔島まで渡り、向かいにある小さな島まで夢中で泳ぎ続けた少年時代。



神辺本陣

江戸時代に参勤交代の大名が休泊した施設。県の重要文化財である本陣は菅波医師の生家。現在も兄の家族が住む。多忙な菅波医師が帰省するのは三カ月に一度程度。時々、海外の人を案内すると喜ばれると言う。